

製品名: Islet1 (18N15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe12773**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50,IP 1:20-1:50
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	ISL1
別名	Isl-1; ISLET1; Islet1; ISL 1; Insulin related protein;
遺伝子 ID	3670.0
SwissProt ID	P61371
免疫原	ヒト膵島1の合成ペプチド

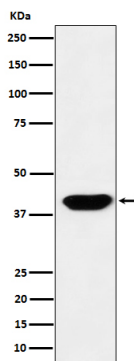
背景

ISL1 (ISL1 転写因子、LIM/ホメオドメイン) は、LIM/ホメオドメインファミリーの転写因子のメンバーです。インスリン遺伝子のエンハンサー領域などに結合し、インスリン遺伝子の発現制御に重要な役割を果たしている可能性があります。膵臓細胞系譜の発達に中心的役割を果たし、運動ニューロンの生成にも必要である可能性があります。Islet-1 の発現は心臓前駆細胞集団を定義し、正常な心臓の発達と非対称性に必要です。DNA 結合転写活性化因子です。標的遺伝子のプロモーターにあるコンセンサスオクタマー結合部位 5'-ATAATTAA-3' を認識して結合します。網膜神経節細胞 (RGC) の分化に不可欠な遺伝子制御ネットワークにおいて基本的な役割を果たします。転写因子 POU4F2 と連携して、RGC 標的遺伝子の発現を最大化し、発達中の網膜で RGC の運命を決定します。LHX3 および LDB1 と連携して運動ニューロンの分化に関与する。インスリン遺伝子エンハンサー配列に結合する。心臓の発達に必須。流出路、右心室、左心室細胞の一部、そして多数の心房細胞を生み出す一つの前駆細胞集団のマーカであり、その機能はこれらの前駆細胞が心臓の形成に寄与するために必要である。この細胞集団における FGF および BMP 成長因子の発現を制御し、咽頭前腸内胚葉および隣接する内臓中胚葉内の細胞の増殖と生存、ならびに心臓前駆細胞の心臓への移動に必要である (相同性による)。

研究分野

神経科学

画像データ



HeLa 細胞溶解物における Islet1 発現のウェスタン プロット分析。